湯沢大堰

関ヶ原の戦いから２年後の慶長７年（1602年）、常陸国から佐竹氏が秋田に国替えとなりました。その後、一族である佐竹南家の佐竹義種が、藩の南の押さえとして、湯沢を治めることになりました。

当時は戦いの時代が一段落し、食糧をたくさん作ろうと日本各地で新田開発が盛んに進められました。ここ湯沢でも、市街地と雄物川の間の、手つかずであった土地に、雄物川の上流から水を引いて、新田を開発することが考えられました。しかし用水路をつくる工事は簡単なものではありません。

そこで佐竹義種は慶長18年（1613年）家来を常陸国につかわせ、次郎左衛門（富谷次郎左衛門）という土木工事の技術者を呼びました。次郎左衛門は、土地の様子をよく調べ、線香測量という方法で測量を行い、自然にできた丘や段差を利用して用水路づくりに取り組みました。そして、湯沢のまちを南北に横切る形で、幅4.5メートル、長さ4.5キロメートルの湯沢大堰が完成しました。この工事にどれくらいの期間や人手がかかったかなどは、はっきりしていませんが、多くの時間と大変な努力が費やされていることは間違いありません。

こうして完成した湯沢大堰によって、およそ250haの水田に水を引くことができたといわれています。大堰はその後３度にわたる改修工事を経て、現在の姿になっています。農業用水としてだけでなく、古くは輸送路や生活用水として、現

在でも防火用水や消雪・流雪用水などとして、重要な役割を果たしています。

大堰（青い線）より西側（下部）に水田が新しくできた〈下記 HP から転載〉

現在の大堰（木山方橋付近）

【詳しくはこちら】

・秋田県雄勝総合農林事務所土地改良課（現雄勝地域振興局農林部農村整備課）「湯沢大堰 home」
http://www.pref.akita.jp/fpd/yuzawaooseki/yuzawaoosekihome.htm

・湯沢大堰物語　http://www.yuzawatokai.server-shared.com/syoukai/yuzawaooseki.html

・小松雅樹氏　湯沢大堰四代　学習資料（湯沢西小保管）